

一人ひとりの教員の成長を 親身になって考え、叱ってくれた

埼玉県 東松山市立北中学校校長 長壁 宏 OSAKABE HIROSHI

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、長壁校長が語る。

どんな時も自分を見て
叱り、褒め、助言してくれた

新任時代の私は、小川正校長から授業や生徒指導のことなどで、毎日のように叱られていました。あまり叱られ続けるものだから、新任1学期の時点で「自分は教員には向いていないから辞めよう」と心に決めていたぐらいでした。

しかし、その夏休み前のことです。その日、私は小川校長から、教育事務所の所長を研修会場に車で送迎するように頼まれました。その車中で所長から「教員生活にはもう慣れた

か」と聞かれ、教員を辞めようと思っていたことを正直に伝えました。すると所長は意外そうな声で、「小川先生からは『うちでいちばん有能な若手が迎えに行きますから』と聞いたんだけどなあ」と言われるのです。私は驚きました。小川校長が自分のことをそんなに評価してくれているんだなんて……。今思うと、小川校長は私への期待を遠回しに伝えるために、所長にこっそり頼んでいたのかもしれない。いずれにしても、私はあのひとで「もう少し頑張ろう」という気持ちになれたのです。小川校長と一緒に働くうちに気付



おさかべ・ひろし 海上自衛隊航空学生の後、大学に入学。26歳の時に教職に就く。専門科目は理科。吉見町立吉見中学校教諭、玉川村教育委員会事務局長、東松山市立東中学校教頭、坂戸市立北坂戸中学校校長などを経て現職。

1981 (昭和56)
吉見町立吉見中学校
に新採で赴任。
小川正校長と出会う

1990 (平成2)
玉川村立玉川中学校
に赴任

1995 (平成7)
埼玉県立小川少年
自然の家に
指導主事兼事業課長
として勤務

1999 (平成11)
玉川村教育委員会
事務局長に着任

2004 (平成16)
東松山市立
東中学校に
教頭として赴任

2008 (平成20)
坂戸市立
北坂戸中学校に
校長として赴任

2011 (平成23)
坂戸市立
千代田中学校に
校長として赴任

2013 (平成25)
東松山市立
北中学校に
校長として赴任

いたのは、校長は叱る時も、教員に深い愛情と意図をもって叱っているということでした。ある時、私が給食の時間になっても職員室で生徒のノートの添削をしていると、「今の時間を何だと思っているんだ。給食の準備の時間だろう。教室に行け！」と大声で言われたことがあります。しかし、その時は私も「うちは担任がいなければ給食の準備が出来ないようなクラスではありません！」と怒鳴り返してしまいました。

その日の昼休み、私は校長室に呼ばれると、静かな口調でこう言われました。「俺はおまえのことをよく見ているから、おまえのクラスが生徒だけでちゃんと給食の準備が出来ることは知っている。でも、何が起きるか分からないのが教室なんだぞ」と。とても納得すると同時に、「俺はおまえのことをよく見ているから」という言葉が心に響きました。

小川校長は、職場が別々になっても私の仕事ぶりを見守ってくれていて、「おまえは勉強不足だから大学院で勉強してこい。ちょうど県が長期研修の募集をしているから」というように、声を掛けてくれました。どうすれば私が教員として成長

「悩みや課題を共有してこそ 集団として一体感が生まれる」



を遂げることが出来るか、常に親身
に考えてくれていたのです。

好きなことに取り組む時が 人は最も成長する

私も今、校長という立場になりました。小川校長と同じく、私も「教員一人ひとりにしっかり目をかけ、伸ばしたい」という思いで先生方と向き合っています。教員の「自己評価シート」には、「今年いちばんやりたいこと」を書かせ、それが子ど

ものためになることが確認できれば、即実行させています。そして随時、「おまえのお陰で良くなった」と声を掛け、言葉で成果をたたえるようにしています。人は自分がやりたいこと、得意なことに取り組んでいる時が最も成長するからです。

教員が意欲を持って楽しそうに働いている学校は、生徒にとっても楽しい学校になります。そして、生徒が楽しそうに通っている学校は、保護者にとっても子どもを通わせて良

かったと思える学校になります。

私がもう一つ大切にしているのは、教員集団としての一体感です。私が荒れの状態にあった学校に赴任した時、教員の関係はバラバラで、会話が少なく、職員室はとても静かでした。そこで、それまで学年別に置いてあったコーヒーマーカーを1カ所にまとめ、美味しいコーヒーマーカーにもこだわり、先生方の交流の場にしました。雑談をしながら、課題や悩み、生徒の情報を共有するようになればと考えたのです。

また、毎回2時間掛けていた職員会議を30分に短縮させました。会議を短時間で終わらせるために、事前に関係者で話し合った方が、教員同士で中身のある議論が出来るからです。小さなことでも続けるうちに教員間に一体感が生まれ、次第に取り組みが活発になりました。すると、生徒の荒れも収まっていたのです。

校長は、生徒と直接向き合う時間は限られています。ですから、校長のいちばんの役割は、教員をやる気にさせることで、学校を元気にすることです。小川校長のように、一人ひとりの教員の成長を心から願える校長でありたいと思います。